

Japan  
Food  
Research  
Laboratories

## 試 験 報 告 書

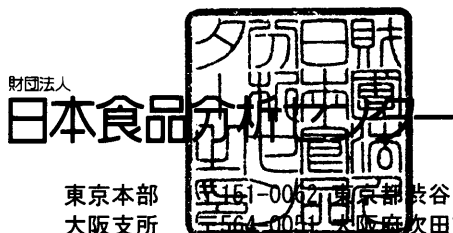
第 107024586-002 号  
2007年(平成19年)04月18日

依 頼 者            株式会社 アメニティーズフォーユー

検 体                MRA500-00・20・21

表 題                最小発育阻止濃度(MIC)の測定

2007年(平成19年)02月26日当センターに提出された  
上記検体について試験した結果は次のとおりです。



東京本部 〒161-0062 東京都渋谷区元代々木町52番1号  
大阪支所 〒564-0041 大阪府茨木市豊津町3番1号  
名古屋支所 〒460-0011 名古屋市中区大須4丁目5番13号  
九州支所 〒812-0034 福岡市博多区下呉服町1番12号  
多摩研究所 〒206-0025 東京都多摩市永山6丁目11番10号  
千歳研究所 〒066-0052 北海道千歳市文京2丁目3番  
彩都研究所 〒567-0085 大阪府茨木市彩都あさぎ7丁目4番41号

## 最小発育阻止濃度 (MIC) の測定

### 1 依頼者

株式会社 アメニティーズフォーユー

### 2 検 体

MRA500-00・20・21

### 3 試験目的

検体の最小発育阻止濃度 (MIC) を測定する。

### 4 試験概要

検体を任意濃度添加した寒天平板培地に大腸菌 (O157:H7) 及びメチシリン耐性黄色ブドウ球菌 (以下「MRSA」という。) の菌液をそれぞれ塗抹, 培養後, 発育が阻止された最小濃度をもって最小発育阻止濃度 (MIC) とした。

### 5 試験結果

結果を表-1に示した。

表-1 検体の試験菌に対する最小発育阻止濃度 (MIC)

試験菌	MIC (W/V%)
大腸菌 (O157:H7)	0.010
MRSA	0.005

## 6 試験方法

### 1) 試験菌

*Escherichia coli* ATCC 43895

(大腸菌, 血清型O157:H7, ペロ毒素 I 及び II 型産生株)

*Staphylococcus aureus* IID 1677(MRSA)

### 2) 増菌用培地

Mueller Hinton Broth(Difco)

### 3) 感受性測定用培地

Mueller Hinton Agar(Difco)

### 4) 感受性測定用平板の作製

精製水を用いて検体の50 W/V%溶液を調製した。これを精製水で順次2倍希釈し、2倍希釈系列溶液を調製した。次に滅菌、溶解後50~60℃に保った感受性測定用培地に、各希釈系列溶液をそれぞれ1/9量(10 W/V%平板については50 W/V%溶液を2/8量)添加し、十分に混合後、シャーレに分注、固化させて感受性測定用平板とした。

### 5) 接種用菌液の調製

試験菌を増菌用培地に接種し、37℃±1℃、18~20時間培養後、菌数が約 $10^6$ /mlとなるように増菌用培地で希釈し、接種用菌液とした。

### 6) 培養

感受性測定用平板に接種用菌液を樹脂製ループ(内径約1 mm)を用いて1~2 cm程度画線塗抹し、37℃±1℃、18~20時間培養した。

### 7) 判定

培養後、発育が阻止された最小濃度をもって試験菌に対する検体の最小発育阻止濃度とした。

以 上